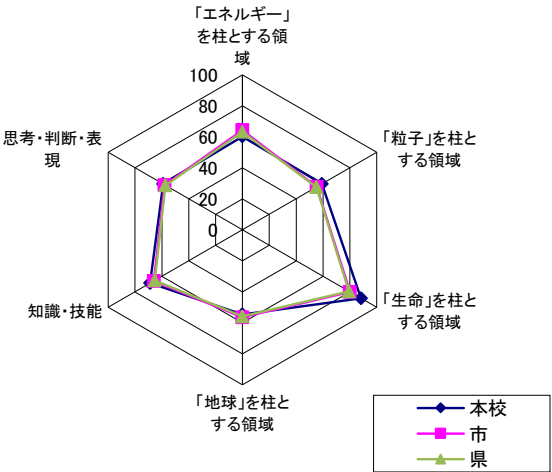


宇都宮市立桜小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	60.2	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	59.3	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	88.3	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	54.6	56.4	55.8
観点	知識・技能	68.8	66.0	65.3
	思考・判断・表現	59.1	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は市や県の平均より低い。 ○直列つなぎを答える問題は、市・県の平均正答率を4.1ポイント上回った。 ●直列回路と並列回路に流れる電流の大きさについて問う問題では市の平均正答率を5.5ポイント、県の平均正答率を2.9ポイント下回った。	・実験結果を、図や表、言葉などでまとめる活動を行うことで、事象をつなげて考えたり、関連付けて捉えたりできるようにする。 ・さまざまな回路図を書き、電流が流れるかを実際に試し流れない時の回路や流れる時の回路がどうなっているのかを考えるような授業を展開する。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は市や県の平均より高い。 ○閉じ込められた空気は押し縮められるが、水は押し縮められないことを理解しているか問う問題では、市の平均正答率を11.7ポイント、県の平均正答率を11.1ポイント上回った。 ●実験結果から分かる水の温まり方を適切にまとめた考察を選ぶ問題では、市の平均正答率を3.6ポイント、県の平均正答率を3.4ポイント下回った。	・実験結果を、図や表、言葉などでまとめる活動を行うことで、事象をつなげて考えたり、関連付けて捉えたりできるようにする。特に、実験結果から分かる考察を大切に指導を行う。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は市や県の平均より高い。 ○骨の働きについてを問う問題では、市の平均正答率を16.9ポイント、県の平均正答率を19.4ポイント上回った。 ○骨と骨とのつなぎ目の名称を問う問題では、市の平均正答率を8.2ポイント、県の平均正答率を7.3ポイント上回った。	・タブレットを活用して自然の姿や様子、変化、動き等を撮影したり、児童同士で共有したりする活動を通して、結果を視覚的に捉え「生命」についての理解を深めるように指導を工夫する。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は市や県の平均より低い。 ○1日の気温の変化を読み取る問題では、市の平均正答率を0.9ポイント、県の平均正答率を2.9ポイント上回った。 ●実験結果から水たまりのできにくい地面を選ぶ問題では、市の平均正答率を5.6ポイント、県の平均正答率を5.1ポイント下回った。	・観察の結果を比較するデータを集めて傾向をつかんでいくなど考察方法を授業で指導し、児童が自ら実験結果についての考察に取り組めるように指導を行う。